

編集後記

紀行文編集担当 幾田 雅彦

自分自身に編集や製本を行なう技術がないことと、ペーパーレスの時勢に対応したいということ、MGC のホームページにこの紀行文集が永遠に記録されること、皆様から頂戴した原稿はくまなく掲載したいという気持から、今回の紀行文集は電子ファイル形式で進めさせて頂きました。「やっぱり、本の形で保存したい」という方もおられると思いますが、時代の流れということでご容赦下さい。そのかわり、従来、ページ数の関係で掲載できなかった文章・写真も全て掲載できているかと存じます。ご執筆に当っては、「何の制限もなく、自由に作成して下さい」とお願いしましたが、さすがに「自由の殿堂」を標榜する MGC の皆様、紀行文を超越した素晴らしい作品をご提供頂きありがとうございました。

旅行中、残留されている皆様にもオンタイムで話題を提供すべく、メーリングリストを使わせて頂き、短いレポートと写真を配信してきました。幸い、バルト三国は IT 環境が整っており、どこのホテルでも無料 WIFI が完備しており、時間さえあれば、簡単なレポートをインターネットで配信することはそれほど難しくありません。極力、毎日一通はお届けするように努力したつもりです。すでに皆さんにはお届けした文章・写真ですが、改めて掲載させて頂きます。限られた時間に作成した稚拙なものですが、オンタイムの臨場感のある感想になっていれば幸甚です。

ただ、IT 大国にも穴はありました。エストニアの首都タリンでは、一流ホテルの WIFI サービスが一時不通になってしまったことです。いくら社会インフラが進んでも肝心の末端の設備が不良ではどうしようもありません。同行の皆さんからもクレームをつけて頂き、約一日後 WIFI も回復しました。9月20日（木）のレポートが欠けているのはその為です。

<メーリングリストで配信したレポート>

(一部、facebook に掲載した文章も含む)

9月14日（金）

ちょっとした出来事がないわけでもありませんが、ヘルシンキ到着以降、全員元気でスケジュールをこなしています。天候は概ね青天、日中の気温は20℃程度、そよ風が心地よく、絶好の気候と言えるでしょう。予定通り、ヘルシンキから空路でリトアニアの首都であるヴィリユニスに来て、トラカイ城を見学。夕方には練習もしました。写真は昼食をとったレストランからみたトラカイ城全景。本日は待望の当地男声合唱団との合同演奏会です。まずは安着報告まで。



<トラカイ城で同じ写真とともに facebook に掲載した記事>

リトアニアのトラカイ城を見学、気温20℃とそよ風が丁度心地よい。美しい城と湖ですが歴史にもまれたリトアニア人の永年の苦勞が滲んでいます。明日は地元の男声合唱団との合同演奏会。@ ヴィリニユス

9月15日（土）

最初の演奏会は無事終わりました。予め用意されていた椅子が不足、先方が追加しましたが、それでも不足、両合唱団のメンバーや同伴者がお客様に席を譲ってもなお立ち見ができるほどの大盛況でした。

2週間前に赴任された駐リトアニア大使もご多忙のなか演奏会のみならず懇親会までお付き合い頂き、宴もおおいに盛り上がりました。

演奏については最後の追い込みが効を奏し、日本の歌を十分楽しんで頂けたのではないかと個人的には感じましたが、また帰国後に参加者のコメントをお伺い下さい。

写真は会場の工芸博物館の入口です。明日は、カウナスに向かい、2回目の演奏会に臨みます。



9月16日（日）

午前中バスでカウナスに移動、杉原記念館訪問の後、昼食をとってから演奏会場である大学の大講堂で練習。昼食のボルシチスープと豚肉料理がとても美味しくて、若干食べ過ぎが影響したのか、音程は悪いリズムに切れないはでどうなることかと不安満載でしたが、本番ではお互いのミスを互いにカバーし合うというファインプレーも幾つかあって、最終的には第一回目に引き続いてスタンディングオベーションを頂き、無事に第二回目の公演も終えることができました。立ち見のお客様が多数おられたので、地元混声合唱団の演奏はドア越しとなり、じっくりと鑑賞できず残念でしたが、会場内の同伴者のお話しでは、二団体とも前評判以上に素晴らしい演奏だったとのことでした。

来週ローマ法王がリトアニアに来られますが、法王の前で演奏するその直前の演奏で練習も追い込み、気力も十分、精一杯力を振り絞った熱演で彼らも自身の達成感も十分に感じとることができました。

演奏会後の交歓会では、「日本で公演したい」、「MGCから十人くらいカウナスに留まって一緒に歌わないか」といった話しもあり、随分と場が盛り上がりました。

写真は、カウナスの旧市庁で現在は博物館になっています。

ご覧の通り、快晴で気温は17℃。明日は、バスでラトビアに入ります。



<同じくfacebookに記載した文章>

第二回目の演奏会はカウナス在の二つの混声合唱団と合同で合唱フェスティバルという形で大学の大講堂で。方や、外国にも度々演奏旅行するプロ級の合唱団、もう一つは日本風で言えば、中高一貫の音楽専門学校の学生の合唱団で卒業生には音楽大学に進学する人も多いと。ともに女声が主体ですが、ビブラートのない透き通るようなストレートな声は聴いたことがない美しさ。

我々が演奏した日本の現代音楽と民謡は彼女たちにはとても新鮮に映ったようで、第一回目に続いてスタンディングオベーションを頂いた。

「60人もいるなら、10人くらいカウナスに留まって一緒に歌おうじゃないか？」と。外交辞令でも、こういわれると大感激。

明日はラトビアの首都リガを目指してバスで北上。@リトアニア カウナス

PS 写真はカウナス旧市街にある旧市庁舎(現在は博物館) 快晴

微風 気温 17℃

9月18日(火)

ラトビアでのスケジュールを全て終えて、バスでエストニアの首都であるタリンに到着しました。バスでの300kmの道中は晴れ・曇り・雨・晴れと目まぐるしく天候が変わりましたが、気温は14℃から20℃とまずまずでした。

リガの旧市街はヨーロッパの様々な建築様式が全て揃っており見本市のようです。リガ大聖堂で目を引くのは高さ24メートルのパイプオルガンでした。名物ガイドの皮肉たっぷりの市内観光説明(ソ連時代の事に対する)は秀逸。一同、腹を抱えて笑っていました。

明日午前中、休息で鋭気を養い、夕刻からの最後の合同演奏会に臨みます。



9月21日(金)

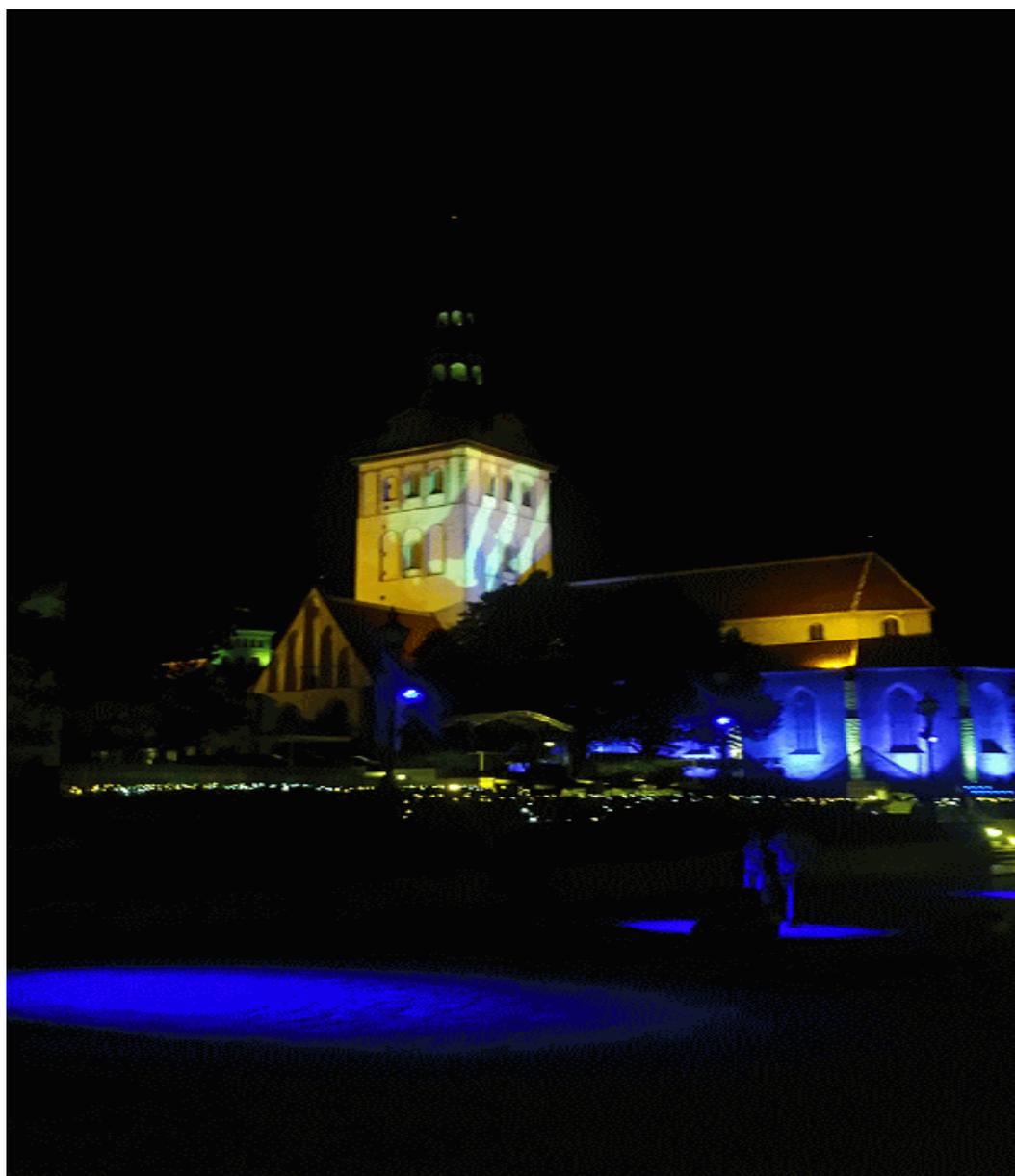
昨日の第三回公演は大きな会場(教会)で行われたためには我々出演者も同伴者も席についてじっくりとエストニアの女声合唱団の演奏を鑑賞することができました。複雑な変拍子・微妙な移調・合いの手や掛け合いを含めたエストニアの現代音楽を流れるように見事に演奏されて唖然としたというのが偽らざる本音です。

移動のつかれか、エストニアの素晴らしい演奏にあてられたのか、我々の今回の演奏、特に民謡は満足感の薄いものでした。

しかしながら、演奏後、一般客の一人から「今歌った歌のCDがあったら売ってほしい」とのお話があり、CDは制作していないこととhomepageには幾つかの演奏をアップロードしてあるのでそれをお聴き下さいと返答するとともに、「どの曲が良かったですか？」と尋ねたところ、南部牛追いと居処を挙げられました。「これらが何故、良かったのですか？」と伺うと、「今まで聴いたことがない、自分には異次元のもので感銘を受けた」と。同じ様な印象を他メンバーもお持ちのようで、我々自身の評価は兎も角、大きな刺激を置き土産に出来て、十分にお楽しみに頂けたのではないかと思います。

タリン市内観光もおわり、夕刻から打ち上げパーティです。全員が元気で帰国できるように気を抜かぬよう留意します。

写真は旧市街の聖ニコラス教会、演奏会からの帰途、ほろ酔いで歩きながら写したものです。



<同じくface bookに記載した文章>

1944年、ソ連赤軍の空爆で廃墟と化した旧市街地も見事に復興して多くの観光客で賑わっています。夜のライトアップも謙虚にさりげなく美しさを醸し出しています。このようにエストニアの国民性は日本と共通するところ多いにあり

と国立タリン大学日本語学科卒業のガイドさんが話してくれました。

@エストニア タリン